



だんだんなあ

Vol.2

2015年1月25日発行

発行：人吉球磨地域在宅医療拠点事業部

地域包括ケアと看取り



球磨地域では日本の平均よりもさらに早いスピードで高齢化が進行しています。

厚生労働省は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的として、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

人吉球磨ドクターネットもその目的達成を目指しているわけです。従来、医師はそれぞれの場所で地域包括ケアに向けて努力してきました。私自身患者本人の思いの実現に役に立ってきたのか多くの反省があります。言葉が出せない患者の思いをどのように確認できるでしょうか。事前指定書が役立つこともあるでしょうがそれでも不十分です。



8年前に在宅での看取りをしたケースがあります。86歳男性患者は奥様に先立たれて一人暮らしでしたが、病歴によると、15年前に手術を受けた前立腺がん

が進行して末期を迎えていましたが、在宅のままで療養を続けたいと強く希望されていました。自宅は当院から10kmほどありましたが在宅での療養の希望に沿って、訪問を引き受けました。訪問看護、訪問介護（ヘルパー）訪問入浴、介護機器貸与などを利用するプランをケアマネジャーに立ててもらい、訪問診療や往診を開始しました。月に1度ほど県内の他の都市に住む息子夫婦も帰ってきました。夏の暑い時期を乗り越えて8ヶ月間の在宅での生活を過ごし、希望通りに住み慣れた我が家に関東から帰ってきた娘さんに看取られながら天寿を全うされました。在宅での最期という点だけでは、希望に添えたと思います。

これまでの幾つかの経験を振り返ってみると、患者のさまざまな状況や各種サービスのあり方を見ると、在宅が最も優れているとは限りません。地域包括ケアでは自宅での看取りも含めて、もっとフレキシブルに考え、できる限り患者や家族の思いに寄り添うことを考えたいと思います。

（在宅ドクターネット理事 緒方俊一郎）

報告

平成26年度在宅医療連携事業 先進地視察研修

福井県坂井市 オレンジホームケアクリニック H 26.11.14（金）

オレンジホームケアクリニックは、在宅医療専門のクリニックです。医師・看護師・社会福祉士・在宅医療コーディネーターなどからなるチームで、住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きていくことをチームでサポート。そして驚いたのは、プロデューサーを2名配置していることです。劇団による事例提示など、視覚的にも「見せる・訴える」企画・運営をされていました。持っている知識や技術はすべて地域にも共有してもらえるように発信していくという考えで、「わかりやすさ」や「楽しさ」が重要という話にも感心させられました。

その他にも「異業種参加型のタウンミーティング」や「認知症カフェ」、さらに在宅療養をしている子ども達と一緒に新しい過ごし方にチャレンジする「オレンジキッズケアラボ」。街角で、病院とは違う雰囲気の中で、気軽に相談できる出張型の保健室「みんなの保健室」など、他にも色々な活動をされていました。

医療者（特に看護師）が地域に出ていく。そこから地域の課題が見えてくる。誰もが安心して暮らせる「まち」を目指して、

「ふくいまちケアプロジェクト」の中では、地域とどうつながっていくかにもチャレンジしておられました。

紅谷代表の情熱あふれる話の中で、「メガネのような医療者になりたい」という言葉が印象に残りました。私もメガネを長年使っており、生活の中

でなくては困るものです。見える世界が違います。私もメガネのような医療者になりたいなあと思います。訪問介護ステーション連絡会としては、「医師・同職種—他職種との連携」に取り組み、人吉・球磨の在宅医療を推進していきたいと思います。（訪問看護ステーションいちよう並木 管理者 愛甲尚美）



「みんなの保健室」でのセミナー風景
（同クリニック Facebook ページより）



どのように最期を迎えるか (2)

地域包括ケアへ向けての第一歩

人吉市医師会 会長 外山 博之

日本の医療・介護は、迫り来る高齢多死社会に向けて大きく変貌しようとしている。当たり前の事であるが、人は生まれたときから様々な運命を経て、最終的に死に到達する。勿論、老いることも病気になることもその人の運命の中に入っている。どのように生きるかはいつも人生の大きなテーマであるが、同時にどのように最後を迎えるかも人にとって最後の重要な課題である。

この高齢多死社会に対応する為には、在宅医療の普及発展が必要不可欠な診療形態である事は言うまでもない。在宅医療における都市圏と地方ではその状況が色々な面で異なる。その対象となる高齢者の人口、それを見る医療・介護の資源（医師、看護師、ケアマネージャーを含む多職種）、更には医療機関などへのアクセスの動向においても様々な違いがある。特に地方



において、しばしば問題になるのが、家庭の介護力の脆弱さである。その上、このような状況下で財政的負担がかかってくるのも患者サイドから見た障害要因の一つである。戦後、核家族化が進展していく中であって、地方では職場などの不足から若年層の人口流出が続いており、結果的に親世代（高齢者）が地域に取り残され、往々にして老老介護であったり、独居での生活を余儀なくされているケースが多い。今後、在宅医療にまつわるこれらの諸課題を地域包括ケアの構築を視野に入れながら一つずつ解決していく事が、在宅医療の普及発展の大きな礎になると思われる。

人は皆、健康で長生きをし、希望に満ちた人生を送り、住み慣れた自宅で家族に囲まれ最後の時を迎えたいと願っている。

今回、在宅療養（医療）を支援すべく人吉、球磨医師会の有志の先生方が、在宅ドクターネットを立ち上げられました。その志の高さと情熱に大いに敬意を表すると共に、今後ますますその輪が広がり、地域の患者さんにとって大いなる福音となる事を期待して止みません。

ささやかな社会貢献を

球磨郡医師会 会長 山村 正統

マスコミでよく取り上げられている高齢者の急増、特に2025年問題といわれ、団塊の世代が75歳以上になります。昭和50年には亡くなる人の5割が自宅で亡くなられていたとありますが、現在は8割を超える人が医療機関で亡くっているとのことです。

若い世代にとって死を身近に実感する機会が希薄になっていると思います。今後、増加していく高齢者は、病気になってもすぐに亡くなる訳ではなく、老いて衰弱化した時期を長く過ごすこととなります。今後、医療も看取りまで含めた在宅医療の確立と介護との連携を加速していく必要があるようです。また認知症高齢者は潜在的認知症も加えると800万人以上になると言われています。認知症対策は社会の大きな

急務です。対応がきちんとなされなければ、社会生活の色々な所でプレーキとなり、社会の活力を奪う可能性もあります。人の寿命は平均寿命とは別に健康寿命ということも言われております。この元気で自立して過ごせる寿命を出来るだけ延ばしていくことも、これから高齢者には求められていることかもしれません。

私自身も団塊の世代に属し、問題となっている2025年に降に医療や介護におおいにお世話になる可能性もあります。しかし、その時代には高齢者の医療や介護に対する若い世代に人的資源は少なくなります。私自身、将来出来るだけ健康に留意して一日でも長く健康寿命を保ち、介護のお世話になったり、高い医療費を使わないように努力することが、ささやかですが社会貢献の一つとなり、若い世代への負担を減らしていくことになるかと思っています。

どこで最期を迎えるか

人吉保健所 所長 小宮 智

人間だれもが老いますが、私には老後までもう少し年月がありますので、もし今の私が末期がんで、あまり長くない時間の余命宣告を受けたら、どこで最期を迎えたいかという設定で考えてみました。残された時間をどう過ごすかということを考えてみると、家族との時間をできるだけ長く共有したい、妻子といろいろなことを話したいと思います。そのためには、やはり在宅での療養を希望します。そして、できれば最期の時は在宅で迎えたいと思います。

心配なこともあります。在宅で十分な緩和ケアが受けられるだろうか、家族（特に妻）に負担がかかるのではないだろうか、といったことなどです。ただ、最近では、多くの地域

で緩和ケアを含め在宅医療を受けられる体制が整いつつありますし、介護サービスも受けることもできます。いろいろな体制やサービスが整備されてきていますが、家族に負担をかけることになると思います。

今末期がんになった場合は在宅療養を望みますが、自分が将来（現時点でもありえますが）認知症になった場合、どこで療養するか、どこで最期を迎えたいかということも考えてみましたが、現時点では答えは出ませんでした。

どこで最期を迎えたいかということは、人それぞれで考え方が異なると思います。多くの人がいろいろな選択肢を考えることができる地域になればと考えています。



在宅医療先進地区の安成英文氏に聞く①

「球磨人吉在宅ドクターネット」が主催した記念講演会に講師としておいでいただいた在宅医療先進地区「たまな在宅ネットワーク」の安成英文先生に設立の経緯と現状をお聞きました。

(聞き手・球磨人吉在宅ドクターネット理事)



安成英文先生
プロフィール

福岡大学医学部卒。福岡大学筑紫病院勤務を経て、医療法人木生会 安成医院 院長。平成 24 年、在宅医療連携事業を立ち上げる。玉名郡在住。

Q：今、一番の問題である在宅医療の問題ですが、玉名の現状について教えてください。

安成：私たちは平成 21 年、医者同士の集まりの時、往診診療しているドクターから「自分だけで全部背負うのは重い作業だなあ」という話が出たんですね。飲み会の席だったんですが、業務保管が出来ないかなということから、申し合わせを始めたんです。医者と看護師だけでは難しいものですから、ケアマネージャーや他の職種の方々とお互いスキルアップして連携して成果が出せないかと探っていたんですね。

平成 24 年に厚生省の事業があったものですから、それを医師会に受けていただき、まあ実働は有志で声を上げて、事務局を医師会病院に置きました。日々の臨床の疑問であるとか、足りないところをみんなの知恵を借りてやっている状況です。

Q：具体的にこれまでの取り組みと今年度の計画を教えてください。

安成：3ヶ月に一度、全体会議を開き、どんな勉強会が良いか、薬剤に関する知識が足りないと思えばワークショップを自分たちで開いて知識の均てん化を図ったりしています。

今年度は、「効果的な会議をするにはどうするか?」とか、終わった後にパーベキューをするとかの仕組みにしています。2ヶ月に一度、薬剤師さんを中心に感染であったりとか、救急であったりとかテーマを決めてワークショップを開いています。

あと、3ヶ月に一度、振り返って、何をしたかとか、積み残しの課題はないかとか、点検をしています。

Q：医師会報に報告されているようですね?

安成：会報の広報委員になったものですから、これまでのこ

とを報告するようになりました。以前は、在宅のことで親しい先生に声を掛けたり、お誘いしていたのですが、それだけでは届かないかなあと思い会報に載せることにしました。多ければ多いほど一人の負担は軽くなるような仕組みにしていますので、一人でも多くのドクターに関わっていただき発展させることを基本方針にしています。

Q：現在、何名の医師が関わっておられるのですか?

安成：33 の医療機関、中には往診しないんですがサポートとして関わるとい整形外科の先生や、地域の中核病院の緩和ケアのグループが中心となってやっています。他に皮膚科や耳鼻科の先生が往診に出てくれて、中核病院より訪問診療の方が充実している科もあります。

Q：先生が考える最期の過ごし方の理想をお聞かせください。

安成：在宅に限らず、自分が理想とする過ごし方が良いと思います。自宅で過ごしたいと希望してもご家庭の事情もあるのでなかなかそうはいきません。最後の最後に良い選択だったと思ってもらえるよう優劣をつけることなくサポートするという理念でやっています。



Q：自宅と我が家の違いとはなんでしょう?

安成：グループホームでも我が家と思ったら我が家、特養でも同じです。在宅で頑張って最後は入院でも良んではないかと思います。自宅での看取りこだわっている訳ではありません。

Q：入院と在宅の選択のポイントはどこにあるとお考えですか?

安成：ご本人の希望をどういうふうにあぶり出すかが問題ですね。ご自分の希望をしっかりと伝える方もありますし、無理でも希望する方もいて、「あんまり無理いわんでね」と言うご家族の方もいます。空気を読むというか、どのような選択をしても最後は良かったと思っていただけるように努力するのが私達の役目ではないかと思っています。

(つづく)

在宅医療推進のための市民公開講座

入場無料
どなたでも
ご参加
いただけます

在宅での生きざま・死にざま

I部 寸劇「亀じいちゃんと鶴ばあちゃん」

II部 IT紙芝居

III部 講演「死を背負って生きる」

講師：淀川キリスト教病院 理事長 柏木哲夫 先生

※講師プロフィール

1965 年大阪大学医学部卒業。同大学精神神経科に勤務。その後ワシントン大学に留学。1972 年帰国し、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設。翌年日本で初めてのホスピスプログラムをスタートし、1984 年にホスピス開設。副院長、ホスピス長を経て、1993 年大阪大学人間学部教授就任。淀川キリスト教病院名誉ホスピス長。大阪大学退官後 2004 年 4 月より金城学院大学学長。2012 年 4 月より金城学院学院長。2013 年より淀川キリスト教病院理事長兼務。



IV部 座談会「在宅での生きざま・死にざま」

コーディネーター：柏木哲夫 先生

討論者：地域の有識者数名



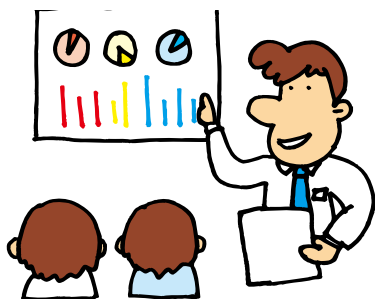
日時 平成 27 年 1 月 31 日（土） 午後 1 時～

会場 人吉カルチャーパレス 大ホール 人吉市下城本町 1578-1

主催 一般社団法人 人吉市医師会・一般社団法人 球磨郡医師会

共催 人吉保健所・人吉市・JCHO 人吉医療センター

お問い合わせ 人吉市医師会（☎ 0966-22-3065 FAX 0966-22-3073）



※今回の市民公開講座は下記が多職種の方々のご協力を得て開催する運びとなりました。ありがとうございます。

熊本県在宅老所・グループホーム連絡会、人吉市歯科医師会、球磨郡歯科医師会、熊本県訪問看護ステーション連絡協議会、熊本県老人保健施設協会球磨ブロック、熊本県医療ソーシャルワーカー協会、熊本県看護協会人吉・球磨支部、熊本地域リハビリテーション支援協議会、熊本県栄養士会人吉地域事業部、熊本県市町村保健師協議会人吉球磨地区、熊本県薬剤師会人吉球磨支部、熊本ホスピス緩和ケア協議会、熊本県歯科衛生士会 人吉球磨郡市支部、人吉球磨地域包括支援センター連絡会、熊本県介護支援専門協会人吉球磨支部、熊本県人吉保健所

編集・発行

人吉球磨地域在宅医療連携拠点事業部

〒868-0037 熊本県人吉市南泉田町 72-2

人吉市医師会館内

電話 0966-22-3065 FAX 0966-22-3073